



2016年 新年号
手書き新聞No.20



注・リアル
紗音

薫習

こんにちは。釋 紗音です。
新年あけましておめでとうございます。
今年も宜しくお願い致します。
お正月を過ぎると、1月16日は、浄土真宗が最も大切にしている親鸞聖人のご命日の法要『御正忌報恩講』ですね。
親鸞聖人の門弟唯円が直接親鸞聖人から聞いた言葉を書き留めた『歎異抄』に、こんな言葉があります。
親鸞もこの不審ありつるに、唯円房 同じ心にてありけり
よくよく案じみれば、天におどり地におどるほどに喜ぶべきことを
喜ばぬにて、いよいよ往生は一定と思いたまうべきなり
唯円さん。あなたも同じだったのですね。よくよく考えてみたら、喜ぶはずのことが喜ばないからこそ、往生は間違いないのです。私たちの様な煩悩を持った凡夫を救ってくださるのが、阿弥陀様の本願だからです。

住職 正月の一筆

これは、唯円が親鸞聖人に「念仏をしても躍り上がる様な喜びが湧き上がってこないし、浄土に行きたいという気持ちになれません」と相談をされた時の親鸞聖人のお言葉です。
親鸞聖人は、唯円の言葉を聞いて、怒るところか共感をされています。
目に見えない浄土を疑ったり、不安に思ったりしてしまうのは、全て煩悩の仕業であり、自分の力ではどうすることもできない私たちだからこそ、阿弥陀様の救いの目当てなのです。
阿弥陀様は、無条件に ありのままの私たちを見捨てずに 救ってくださいます。
地獄行きはどうしようもない私たちを、ひとり残らずお浄土に生まれさせようと、常に願いをかけてくださっています。
親鸞聖人は、阿弥陀様から信心をいただいて念仏を申している者は、皆 御同朋(仲間)だとおっしゃいました。いつかは同じお浄土に生まれさせていただく者同士、阿弥陀様の方を共に向いて、一生懸命生きていきたいですね。

秋季永代経法座

10月7日(水)

参詣者全員で仏説阿弥陀経をお勤めし、住職による法話を聴聞しました。
「難異抄 第九章 浄土は恋しからず候」
「親鸞聖人が聞法の真の教えの上から敬遠されたこと」 (まこと)

岡山南組仏教婦人会連盟石研修会

10月27日(火)

この石研修会は、法親寺のご門徒の篠原久代連盟会長の初めての事業でもありましたが、組内仏婦連盟に加盟されている会員の皆様に大勢参加していただき、成功裡に終了いたしました。(源照寺様 会所)

本願寺神戸別院竣工・兵庫教区教化センター設立二十周年記念法要

11月25日(水)

神戸別院で11月25日から4日間の日程で修行されました。
岡山南組はバス2台で参拝しましたが法親寺からも住職を含め5名がありがたいご法縁をいただきました。

樂地本願寺 報恩講

11月11日～11月16日

期間中は、晨朝、日中、建夜、初夜のご法要以外にも、ご法話や絵と、パイオルガン演奏、コーラスなどもあります。15日の夜から16日の朝にかけては、通夜布教も行われます。本山は1月9日から1月16日まで。

閑谷学校 ライトアップ

閑谷学校は、寛永10年に備前藩主池田興政が創設した庶民の学校です。現存する庶民を対象とした学校建築物としては世界最古のものだそうです。期間限定の紅葉ライトアップも住職のオススメ観光スポットです。

住職の法話

皆さん 明けましておめでとうございます。
今年の手書き新聞新年号の「住職の一筆」は『薫習(くんじゅう)』と書かせていただきました。広辞苑で意味を引いてみると、「物に香がネタリ沁むように、あるものが習慣的に働きかけることにより、他のものに影響・作用を植えつけること」とあります。「物に香がネタリ沁むように」とは正確には「物に香の薫りがネタリ沁むように」ということです。
私の自動車に入が乗ると、決まって「いい香りがしますね」と言われます。お寺関係以外の会合に法衣のまま出席すると同じように「いい香りですね」と言われます。
いつの間にか香の薫りが自動車や夜に沁み込んでいくのでしょう。
「あるものが習慣的に働きかける」は「阿弥陀様が常にはたらきかけ、お育てくださっている」とあじわうことができます。「他のものに影響・作用を植えつける」とは、こうに沁み込み常に共にいてくださる阿弥陀様のおはたらきにより私の心には「南無阿弥陀仏」のお念仏が出てくるということです。
阿弥陀様のたゆまないはたらきはお香が夜に沁み込むように私の心に沁み込んでくださいます。私が称える念仏は私が称えておきながら、阿弥陀様が私を救おうというおはたらきであり、呼び声なのです。聴聞を重ねるうちに阿弥陀様の徳がいつの間にか香りが夜に沁み込むように私の心に沁みつき、それが縁にふれると念仏となって私の心から出て下さるのです。
今年もお念仏申させていただく一年を過ごしましょう。



注・リアル
住職

広島♡愛媛

大三島のアートめぐりバスポートで満喫。
ところミュージアム オススメです。

因島にある「万田 齋藤」で有名な万田 齋藤さんの本社へ。大きなトマト!!

タイル美術館 ICHIHIRO タイルを作る工場見学もできます。ムーミンのグッズ展示も多数です。

おしえて住職 Q&Aのコナ

Q... 讃仏偈の仏とは、誰のことですか?
A... 日常勤行、お彼岸、お盆などでお勤めし、親しみのある讃仏偈。
浄土三部経の中でも、真実の経である「仏説無量寿経」の中のお経です。私たちが仏様のお話をする時、1番に出てくるのは、阿弥陀様ですが、実は讃仏偈の「仏」は阿弥陀様ではなく、師仏である世自在王仏のことです。阿弥陀様が法蔵菩薩であったとき、世自在王仏のお説法に感動し、「私もあなたの様な仏様になりたい」と讃え、「今までの仏様が救えなかった全ての人々を救える仏になりたい」と誓ったのが「讃仏偈」です。讃仏偈の最後には、「自らの命を差し置いてでも、悩み苦しむ者たちを救いたい。たとえ毒の中に身を沈めようとも、周りに認められなくても、決して後悔せず、成し遂げてみせる」という法蔵菩薩の誓いが書かれています。法蔵菩薩は、五劫という想像もできない期間の修行を完成され、無量寿、無量光の阿弥陀如来になりました。

お知らせ

御正忌報恩講法要

●日時●平成28年1月11日(月・成人の日)午後1時半～
●場所●法親寺本堂
●講師●吉田 信哉 (法親寺住職)
千田 匡真 (東京都 本清寺 副住職)

※お車は、隣接駐車場及び臨時駐車場をご利用下さい。